

粕谷和夫の観察日記より。裏高尾の日影林道は生き物観察に最適の高齢者向けルート。7月31日に出合ったカラサヤゲハとサワガニは以前送りましたが、この日の主目的は「秋の七草」であるキキョウ、毎年この時期にキキョウに出合って初秋を感じるために日影林道を登り、小仏城山の山頂で一休みします。今年のキキョウは1輪だけの開花でした

# 紅葉台



# 新聞

第198号

2025年  
9月6日

発行人：関谷 孝

## 保護犬を飼う という選択



日本での保護犬活動は、1927年に設立された「日本動物愛護協会」がその原点とされています。動物の権利と福祉を守るために活動を開始し、戦後の混乱期には特に犬や猫の遺棄が社会問題となったことが背景にあります。私が子どもの頃、

今から(60年ほど前)街には野犬がいました。すごくなついていたのですが、ある日保健所がやって来て連れて行ってしまいました。子ども心にとっても悲しかった出来事でした。

また、動物を「命ある存在」として尊重する考え方が社会に広まり、保護活動への関心が高まりました。1973年に「動物の保護及び管理に関する法律」が施行され、2012年には「動物愛護法」が改正されるなど、法的な支援体制が整ってきました。最近の保護活動の広がり、保健所や自治体による引き取り制度の整備・民間団体による譲渡会や啓発活動の活発化・SNS やメディアを通じた情報発信と支援の輪の拡大につながり「殺処分ゼロを目指して」います。

特に今回私が出会った地域のボランティア団体「ペットのおうち」は、全国の保護犬・保護猫の里親募集を支援するためのプラットフォームで、個人や団体が登録して活動しています。地域での保護活動や一時預かり、譲渡会などを行っています。🐾 主な活動内容は、保護された犬猫の情報掲載と里親募集・一時預かりボランティアの募集・被災地支援プロジェクト(例:能登半島地震支援)・医療費支援や寄付の受付・保護動物の啓発活動や教育活動です。現状の保護犬の数字(2023年度)は、保健所などに引き取られた犬:約19,352頭のうち殺処分された犬:約2,118頭。1日平均で約5頭が殺処分されている計算になります。四国地方(徳島・香川・愛媛など)は野犬が多く、殺処分率が高めです。一方、神奈川県・静岡県・東京都などは殺処分率が非常に低く、譲渡活動が活発です。

今回我が家に来たのは香川県から来た雑種のオスです。山林にいたのを保護されました。飛行機で東京にきました。保護犬は人間に虐待された経験があるために人を警戒し、心を開くことが難しいです。それでも根気よく関わることで人への信頼を回復し自分の家があることで安心して暮らすことが出来ます。犬や猫にも感情があります。生き物も幸せに生きるために生まれてきたのです。殺処分におびえる犬たちを見ると心が痛みます。実は、今年の7月に我が家の愛犬マルコが虹の橋を渡ってしまいました。とても悲しく毎日が悲しくて仕方ありませんでした。それだけたくさんの愛と幸せな時間だったからだと思います。純真な犬との暮らしは濃密で心癒されます。そして、たくさんの幸せを感じるこ

が出来ました。悲しい分裏を返せば楽しい思い出がたくさんあったということでもあります。また、「私(犬)がいなくなったら、もう飼いたくないと思わず、その席を恵まれない犬にあげてね」との詩も後押しになりました。



そこで自分の残された時間を保護犬を助ける活動をしようと思いました。少しでも社会貢献になればと思います。皆さんも興味関心がありましたら、「ペットのおうち」で活躍しているヤスダさんのインスタを紹介しますので覗いてみてください。ヤスダさんは、トリマーの資格を持ち8年前から殺処分の犬を救い出しています。同じ仲間と繋がり地域で月に1度の譲渡会

を通して保護犬の「ずっとのおうち」を探しています。この団体は営利目的ではなく、承諾書を取り交わし、かかった費用のみで譲渡しています。(病院での検査や予防接種、マイクロチップ、交通費等)規約がしっかりしているので信頼のおけるところだと思いました。お試し期間を経て、しっかりと飼ってくれる方を確認し譲渡しています。必要な道具や餌なども準備します。ヤスダさんは大きくなってしまった犬たちを含め9頭を飼っています。犬を飼いたいと思ったとき、保護犬を飼うことも考えてみてはいかがでしょうか。(右QRコードから見られます)



@LIFE\_WITH\_WAN

## 粕谷和夫の観察日記



セリといえば、春の七草、冬の鍋には欠かせない野草ですね。そのセリの開花期は夏の今頃です。この写真は7月21日、八王子・川町谷戸の休耕田で咲いていたものです。セリは野草ですが、鍋物に人気があったためか、平安時代から栽培もされていたという記録があるそうです。蝶のキアゲハの幼虫はセリの葉が大好き、ここ川町谷戸からもキアゲハが羽化するかもしれません。キアゲハといえば高い山が大好き、夏に山に登ると山頂でキアゲハに出会うことがよくあります。



猛暑、お見舞い申し上げます。セミの鳴き声があちこちから聞こえるようになりました。この写真は背の高い野草のタケニグサを登ってその蕾に掴まり脱皮したセミの抜け殻です。セミに詳しい方に「何セミか」を写真で照会したところ、「触角の第3節が太くて長いことからアブラゼミと同定できます。」との回答を頂きました。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。